

# 2018年2月度 中部品質工学研究会 議事録

1. 開催日時  
2018年2月3日(土) 10:00~17:00

2. 開催場所  
(有)アイテックインターナショナル

3. 参加者<敬称略>出:出席、欠:欠席、書:書記、休:休会

大見	出	牧野	出	横尾	出	山口	出	杉浦	出	三浦	出	城越	出	中山	出
合田	出	佐藤	出	伊藤	書	舟山	出	石上	出	岡田	出	出島	出	福田	出
庄内	出	李	欠	河合	出	奥村	出	雲丹亀	休	林(千)	休	則尾	休		

4. 研究会内容

1) 輪講 第5章 目的機能と合わせ込み 担当: 舟山

目標値への合わせ込み方法は3つ。①信号を変化させる ②制御因子を変化させる ③それ以外の因子による比例式からのずれに対する合わせ込みについて理解するとともに標準SN比の有能性を再考した。

2) テーマ相談①

社内事例発表 詳細省略

3) テーマ相談②

社内事例発表 詳細省略

4) テーマ相談③

社内事例発表 詳細省略

5) テーマ相談④ 三浦さん

社内MTシステム教育内容の紹介

身近な例のコンビニパンを題材にMTを体験してもらう内容

6) 分科会

APRT法: リーダー 出島

詳細は省略

機能性評価: リーダー 合田

発表事例の機能を確認。今後の進め方の検討

応答曲面法: リーダー 山口

12月に提案された説明変数が2つの場合の実測値と応答曲面関数(2次モデル)

を用いた予測値との寄与率は $R^2 = 0.85$ であった。

偏回帰係数 $\beta_0 \sim \beta_5$ を振り(t分布においてp値を狭い範囲で変化させ $\beta$ の振り幅

を決める)L8直交表の要因効果図からSN比の高い水準を選び、新しい応答曲面関数モデル

を作成し、新しい予測値を求める。

そのうえで、p値を横軸にとり、寄与率 $R^2$ がどのように変化するか検証する。

CS-T法: リーダー 牧野

詳細は省略

5. 事務局連絡

① 守秘義務の内容と運用方法について

② 中部品質管理協会様HPでの研究会紹介内容について

③ 来期活動予定について

招待講演者検討

④ 今期予算について

書籍購入 → 山口様より各会員に書籍の所持状況を確認する

書画カメラ購入

⑤ 総会について

3月: 総会開催

6月: 17年度収支報告会開催

⑥ 対外発表について: 発表予定者

品質工学研究発表大会: 出島さん、城越さん

関西合同研究会: 城越さん

業務改善事例発表大会: 岡田さん

⑦ ソフトウェア資産の管理について

サーバー管理を導入検討中

6. 次回案内

日時: 2018年3月10日(土)

場所: 中部品質管理協会 研修室

以上